

KURADASHI.jp の会員の皆様へ



フードバンク子ども支援プロジェクト

ご支援のお礼とご報告

認定特定非営利活動法人フードバンク山梨

この度は、KURADASHI.jp を通じて、当法人の「フードバンク子ども支援プロジェクト」にご協力をいただき、誠にありがとうございました。今回は 100,780 円ものご支援を賜り、これまでのご寄付総額は 528,090 円となりました。温かいご支援に心から感謝を申し上げます。

食料支援バレンタインバージョン



2月の食料支援では、山梨英和中学校・高等学校のサークルにバレンタインカードを作成していただき、チョコレートやチョコ菓子とともに食品をお届けしました。フードバンク山梨では、季節の行事を取り入れながら食料支援を行っています。

学習支援「えんぴつひろば」

2017年5月から始めた子どもたちへの学習支援（毎週土曜日）は、田富教室 36 回、都留教室 15 回実施し、3月14日に2017年度を終了しました。2018年度も田富教室で引き続き行ってまいります。



「乳幼児期の貧困の把握に関するアンケート調査」を実施いたしました。

2016年に認定NPO法人フードバンク山梨が食料支援をしている546世帯を対象に実施したアンケート調査で、ミルクやオムツが不足したことがある家庭は、調査対象世帯のうち41.5%でした。また、経済的に苦しいと感じるようになった時期については、「第1子出産前」「第1子出産直後」「第1子が幼児の頃」を合わせると回答者の約3割が比較的早い時期から生活困窮状況にあり、

母親の妊娠・出産期、子どもの乳幼児期からの早期把握、早期支援の必要性が明らかになりました。

今回の調査は、上記調査で明らかになった乳幼児期の貧困の実態を把握することを目的として山梨県保育協議会、長崎大学小西祐馬准教授にご協力いただき、山梨県内の保育施設を対象に、2017年12月に実施いたしました。調査では、保育施設における乳幼児の貧困の把握や、実際に乳幼児が貧困状態にあると感じた場面、貧困世帯と思われる世帯の園児とそうでない世帯の園児との、行動や成長の違い等について調査を行ない、139の保育施設、628人の保育士から回答を得ました。

貧困世帯とみられる園児が在園していると回答した施設が4分の1だったことが分かり、貧困家庭とみられる園児への対応は、保育士らの7割は「十分なのか分からない」と感じ、十分ではないとする回答と合わせると8割を超えました。このような深刻な状況を受けて当法人では、保育施設を通して食料支援の申請書を配るなど連携した支援を検討していきます。

※ 詳しくはフードバンク山梨のホームページをご覧ください。

認定 NPO 法人フードバンク山梨

理事長 米山けい子
